



ユース版

今年度入学式は、去る4月6日(火)に挙行され、高校282名、附属中80名が入学しました。校長先生の式辞と来賓祝辞の要旨は次のとおり。

【高澤校長先生式辞・要旨】  
札幌農学校クラーク博士のBoys and girls, be ambitious! (少年、少女よ、志を高く持て!)という言葉に続く言葉は、「お金の欲のためではなく、人としてこうあるべきだ」という姿に到達するために」と言われている。イギリスの冒険家ラポックも「他人が自分より優れていても、恥ではないが、去年の自分より今年の方が優れていないとすれば、恥だ」と言っている。学校は競う場ではなく、

【赤地同窓会長祝辞・要旨】  
ニュートンが、ケンブリッジ大学3年生の頃、イギリスではベストが大流行し、2年間大学は閉鎖された。故郷でのこの自由な時間の中で、リンゴの実が落ちるのを見て、引力のインスピレーションが湧いたと言われる。予測が困難な時代、自分で考え、求め、行動し、逞しく生き抜く力を養ってほしい。



互いを高め合う場所、「良い学校」とは、お互いに協力し合え、個々の力を伸ばせる学校であれ、と願っている。  
【安部PTA会長祝辞・要旨】  
今年も、今まで経験したことのない未曾有の世界の中で、卒業生皆様は強い力を身に付けてきた。これから始まる世界も、自分でしか感じられない感性で切り拓いていく欲しい。新しい世界に夢に向かって。可能性は無限に広がっている。  
さて、本題です。昨年度は、学年別分散登校や25分授業、それに在宅オンライン学習等、コロナウイルスが学校生活を直撃しましたが、自分で書くのもなんだか恥ずかしいのですが、僕たちの学年は進学成績が良かった(註1)ことが話題になつていようです。その理由について少し考察を述べたいと思います。僕の実感としては、何よりも学年全体の受験に対する姿勢

全国誌「大学合格力」、県内2位にランク 「非常時における好成績」考

東北大理学部物理系1年 丸山一樹(高73回)

新入生の皆様、ご入学、おめでとうございませう。日々新型コロナウイルスの感染状況を気にしつつ、できる範囲内での「大学生」を始め、はや数ヶ月が経ち、そろそろ仙台での大学生活にも慣れてきました。この間、去る3月まで、ともに屋代高校3年生であった約272名の級友たちもそれぞれの道に向かって、全国に散らばって歩み出した頃であります。すでに同窓会で再開できることを楽しみにしているのは僕だけではないでしょう。

勢・雰囲気は非常によかつたと感じています。様々な入試の仕組みがあるため、早い時期から合格・進学が確定していた人も多かつたと思います。そのような人たちは大部分は、共通テストまで一緒に勉強してくれたことが刺激になつたと思つていいます。  
このような雰囲気の中で、クラスに関係なく、普通科も理科も、選抜生も内進一貫生も、互いを刺激し合える、そんな仲間が囲まれていたことに感謝しています。そのような環境を作つて下さつた先生方に心から感謝しています。これが最大の原因だと思つています。高澤校長先生は式辞で「良い学校とは、他の人と競うのでなく、お互いが高め合ふことで、個々の力を伸ばせる学校」と仰せられました。この雰囲気は醸成されている学校だと思つていいます。最後にになりましたが、これからの屋代高校も我々なんかに凌ぐ素晴らしい人材を輩出してほしいです。

附属中学校に入学して

1学年PTA会長 七海 由蘭

まずは、コロナ感染症防止にご配慮の上、高校生と二階に盛大な入学式を挙げて頂き、入学生一同新しい生活に胸が膨らみました。心より感謝をしております。  
屋代附属中学校へ「行きた」と言いつつ始めたのは、娘の方からでした。将来の夢の実現に向けて「志」があつたことだと思つています。娘の希望を尊重し、屋代附属中学への進学を視野にいれました。幸運にもその願いが叶い、附属中学校へ入学することが出来ました。

また、少人数を生かし、個々の興味に基づく探究的な学びや、生徒同士の協働的な学びの増加にもつながると期待しています。  
最後に、生徒に望むことを伺います。  
令和4年度より、新学習指導要領に基づく新しい教育課程での学びがスタートします。本校も、多様化・複雑化する時代に対応するため、進路型単位の導入を決定しました。生徒の皆さんには、明確に目的をもって授業を選択して毎回の授業に臨んでほしいと思つています。また、議論・発表・協働する姿勢も重要になります。ぜひ、制度的なものだけでなく、学びの質もアップグレードし、新たな屋代高校の学びを一緒に作っていきましょう。

(註1) ダイヤモンド社の「大学合格力高校ランキング」(令和3年8月号)

県内順位	学校名	卒業生数	*合格力	全国順位
1	A	277	37.8	119
2	屋代	272	37.5	129
3	B	312	33.2	201
4	C	322	32.0	219
5	D	238	31.4	228

\*合格力は、国立66校、公立34校、私立14校、国公立医学部50校の合格者数に基づき算出する。偏差値を参考者数に算出した難度を、各高校の大学合格人数に掛け、加重平均した合計を卒業生数で除したものである。

連載・私の附属中時代(その十)

本学一人目の東大野球部員

東京大学理科I類1年

谷保 梓樹 君(高72回)



附属中ではハンドボール部、高校からは野球部として活躍。東大入学と同時に野球部に入部。1年生が32名、全体では100名を超えるため、A・Bの2チームに分かれて日々の練習に励んでいる。練習日は週6日で一日の練習時間は5時間。

附属中学生徒会活動のこと

私が附属中学での生活について一番印象に残っていることは、中学3年生の時に生徒会長として取り組んだ生徒会活動です。私たちの代では「挑戦」をスローガンに掲げ、学校生活をより良くするために協力を求め、失敗を恐れずに新しい取り組みにもどんどん取り組んでいくという共通意識のもと、取り組みました。執行部での話し合いの中から多くの新しいアイデアが生まれ、その一つ一つを実現していくのは当然うまくいかないことや、想像以上に大変だったこともたくさんありましたが、それらを執行部の仲間みんなが協力しあつて、成功を積み重ねてきた経験が、協力することの大切さや、事業を効率よく進める方法、締め切りを守るなどの社会常識等、多くの貴重なことを学ぶことができた点で非常に良いものとなりました。生徒会長をやらせていただき、生徒会活動に深く関わらせていただき、本当にありがとうございました。

私自身も高校在学時にはイベント主催をしたことがありましたが、そういつたことに積極的に取り組むのではなく、高生が大きなただ学校で勉強しているだけではもったいない、自身の進路実現に向け、勉学に励む中でも時間の許す限り積極的に他の活動に取り組んでみてほしいです。

今、大学野球のこと

さて、私は今、大学で、希望する工学部に進学できるよう勉学の励みながら、六大学リーグでの勝利を目指して、硬式野球部員として練習に取り組みんでいます。相変わらず猛威を振るうコロナウイルスの影響で、オンライン授業がほとんどですが、体育や語学など一部の教科で対面授業も盛り込まれています。大学には、日本全国、そして海外から多くの多様な学生が集い、そのような環境の中で日々は非常に刺激的な日々です。時間的には非常に忙しい日々ですが、充実しております。僕自身も常に挑戦するという気持ちで忘れず、日々頑張つていこうと思つています。

本学カリキュラム「進路型単位制」への改革案をまとめた本学教諭

金井 和義 先生



上田市丸子のご出身、上田高校ではハンドボール班で活躍。千葉大学文学部に進まれ、古事記・万葉集等の上代文学及び口承文学(昔話)を三浦佑之教授(直木賞作家しるをん氏の父)に師事される。小諸高を初任として、下高井農林高、東御市立東部中を経て、平成25年から屋代高校にご勤務。

クロージアアップ

来年度、本学で導入される「進路型単位制」について教えてください。

単位制の学校は教職員が増員されますので、それを生かし、個々の生徒の希望進路や学習到達度に応じて選択し、少人数でも開講できる講座を増やします。更なる学力向上や多様な進路実現につながる授業を開講する予定です。例えば、これまで難関大学への入学向けの講座や、基礎学力を充実させたい人向けの講座は、補習や個別指導で対応してきましたが、今後は授業の中で選択できるようにします。

この導入の背景にあるものについて教えて下さい。近年、大学入試が大きく変わり、自己推薦が求められる総合型選抜入試が拡大し、複数の教科をまたいだ思考力や表現力が問われる、総合問題や論述

問題も増加傾向にあります。このように、「新学習指導要領」や「学力・判断力・表現力」や「学びの主体性」を入試で問う大学が増えています。これは、このような能力が社会で必要とされるからに他なりません。高校でも、文系・理系の垣根を越え、自分に合う形で幅広い科目を学び続ける姿勢が重要になります。

屋代高校では、伝統的に文系・理系問わず5教科の学力を武器に、幅広い分野で進学実績を上げてきました。また、SSHによる探究学習も各方面で実績を残しています。さらに、単位制の導入で少人数講座が増えることで、個々の生徒に授業者の目が届き、今まで以上に丁寧な学習指導ができるようになります。

また、少人数を生かし、個々の興味に基づく探究的な学びや、生徒同士の協働的な学びの増加にもつながると期待しています。

積極的に歩もう  
さて、この経験から皆さんに

# 新任教頭、副校長先生のご紹介



塚田 武明 教頭先生

1 着任のご感想について  
本校で、およそ20年前に感じた教科指導のやりがいを、理数科担任の充実した日々を懐かしく思い起こしました。いまも変わらぬ、前向きな生徒たちを、先生方と力を合わせてサポートしていくと決意しました。

2 これまでどんな学校にご勤務されましたか  
理科教諭として梓川屋代―犀峽―長野吉田に勤務してきました。教頭として昨年度は長野高校定時制、今年度は本校に勤務となりました。伝説ある屋代高校に二度目の勤務ができることを、とても光栄に感じています。ちなみに赤地同窓会長は当時、屋代高校長であり、多くのご指導をいただいていた大変お世話になりました。

3 先生のご専門分野について  
理科(生物学)です。大学では動物発生学講座に所属して、研究室のテーマは四

1 これまで、どんな学校等にご勤務されたのですか。  
平成5年度、松本市の鉢盛中学校が初任で(4年間)、以降県内の中学校を6校経験したのち、安曇野市教育委員会(3年間)及び長野県教育委員会(「学びの改革支援課」主任指導主事・2年間)で行政とかわりながら仕事をし、今年度から本校にお世話になっております。中学校では、野球部顧問として子供たちと共に、四六時中白球を追いかけていました。

2 ご専門とする分野どんな方面ですか。  
教科は理科で、大学では地学の火山学で、新潟県弥彦山の流紋岩、黒曜岩、真珠岩などを中心に研究しました。専門的には火山が中心ですが、天体観測をすることが好きで、視野に飛び込むことが好きです。スケールの大きさを実感することがとても好きです。先日の皆既月食も楽しみました。先日の皆既月食も楽しみからよく見えずにとっても残念でした。

3 着任の感想をお聞かせください。  
久しぶりの学校現場のため、「頑張っているね」という声がたくさん聞かれます。生徒の皆さんと「頑張っているね」という声がたくさん聞かれます。

4 今後の課題としてはいかがでしょうか。  
附属中学校は、今年度10期生が入学しました。開設10年間の節目を迎えます。それと同時に、新たな10年目をスタートする年になりました。探究で身に付けた力を外に向かってく、大いにOUT PUTできるようにしたいです。学びを中心に据えたい、さらに「魅力ある学校」をつくりたいと思っています。

5 生徒への期待としてはどんなことを？  
学習意欲が高く、特に主体的に学習しているときの表情は、迫力があります。これぞ、これからの学びの形だと感じました。

6 今後の学校の課題  
社会は大きな変革期にあります。「新しい時代を自ららしく生きる人を育てる」ために、本校の「三つの方針」を丁寧に具現化していくことだと思います。



一色 保典 副校長

1 これまで、どんな学校等にご勤務されたのですか。  
平成5年度、松本市の鉢盛中学校が初任で(4年間)、以降県内の中学校を6校経験したのち、安曇野市教育委員会(3年間)及び長野県教育委員会(「学びの改革支援課」主任指導主事・2年間)で行政とかわりながら仕事をし、今年度から本校にお世話になっております。中学校では、野球部顧問として子供たちと共に、四六時中白球を追いかけていました。

2 ご専門とする分野どんな方面ですか。  
教科は理科で、大学では地学の火山学で、新潟県弥彦山の流紋岩、黒曜岩、真珠岩などを中心に研究しました。専門的には火山が中心ですが、天体観測をすることが好きで、視野に飛び込むことが好きです。スケールの大きさを実感することがとても好きです。先日の皆既月食も楽しみました。先日の皆既月食も楽しみからよく見えずにとっても残念でした。

3 着任の感想をお聞かせください。  
久しぶりの学校現場のため、「頑張っているね」という声がたくさん聞かれます。生徒の皆さんと「頑張っているね」という声がたくさん聞かれます。

4 今後の課題としてはいかがでしょうか。  
附属中学校は、今年度10期生が入学しました。開設10年間の節目を迎えます。それと同時に、新たな10年目をスタートする年になりました。探究で身に付けた力を外に向かってく、大いにOUT PUTできるようにしたいです。学びを中心に据えたい、さらに「魅力ある学校」をつくりたいと思っています。

5 生徒への期待としてはどんなことを？  
学習意欲が高く、特に主体的に学習しているときの表情は、迫力があります。これぞ、これからの学びの形だと感じました。

6 今後の学校の課題  
社会は大きな変革期にあります。「新しい時代を自ららしく生きる人を育てる」ために、本校の「三つの方針」を丁寧に具現化していくことだと思います。

千曲市内に初の精神科クリニックを開院された

## 富永見佳院長



中野市立南宮中学出、高校第55回(平成15年理数科)のご卒業。卒業後、平成21年自治医科大学を駒ヶ根「心の医療センター」で勤務。今年5月に「ちくまこころのクリニック」を開院された。

○千曲市での精神科クリニックは初と承りましたが、島田クリニック(島田一秀院長、高31回)の「神経内科」とは、どう違いますか？

―― 神経内科は、内科の一つの分野で、脳・脊髄・神経・筋肉等の病気を診ます。それに対して、精神科は、精神的な原因による気分や身体的な

○精神科医を目指すことになった動機など、教えてください。  
―― 駒ヶ根市や静岡県の医療センターで研修医をしていた時に、「人の生き方、いかに生きるか」という面、患者さんをサポートできる分野だと感じたことが大きかったですね。現代のストレス社会の中で、患者さんの生き方をサポートすることを使命にしたいと思っています。

○開院されて2か月、患者さんの中で青少年の占める比率はどのくらいですか？  
―― 10代、20代の若い方は、全体の3割くらいを占めています。

○最後に、高校時代の思い出や、後輩の生徒達にひと言をお願いします。  
―― 高校では美術班に入っており、油絵を好んで描いており、鳩祭で団扇(うちわ)を作成したことなど、楽しい思い出です。附属中・高校生には、医療は社会貢献の大切な分野ですので、医師を目指したい、と申し上げたいです。

○症状を扱う領域で、心療内科や神経科がこれに入りますね。  
―― 心療内科は、心身の症状を扱う領域で、心療内科や神経科がこれに入りますね。

## フィオナ先生の懸賞パズル

Dr Fiona Ninnis



フィオナ先生は平成22~27年度の5年間、屋代高・附属中で英語を教えられ、平成28年(2016年)にオーストラリアに帰国。現在シドニー郊外で英語教師をされる。

### Question :

次の文はオリンピック競技の結果を示す記述です。これを読んで、下表の空欄に、国名、スポーツ名、順位を記入しなさい。

Misaki, Arthur, Adana, Mohammed and Nua competed in the Olympic Games. Please work out which country each competitor is from (Japan, Australia, France, South Africa or Jordan), which event they competed in (swimming, weight lifting, archery, Judo or cycling) and the place they came in their event (1st, 2nd, 3rd, 4th or 5th).

### List of clues:

- The swimmer finished higher than the weight lifter and the cyclist.
- Adana is not French or Australian.
- South Africa and France missed out on a medal in their competitor's event.
- The weight lifter did not come fifth but did not get a medal.
- Mohammed finished better than Arthur but worse than Nua.
- The archer is not from the Middle East, Africa or Europe.
- The Japanese competitor just missed out on a gold medal.
- The Jordanian swimmer beat everybody in her race.
- Mohammed did not represent Japan or France.
- Arthur competed in the men's Judo competition.
- Nua is from the Middle East.
- The archer won a bronze medal.
- Misaki, Arthur and Adana have never picked up a bow.
- The South African competitor competed in Judo and the weight lifter was French.

### FILL IN THE ANSWERS:

NAME	COUNTRY	SPORT	PLACE IN EVENT
Misaki			
Arthur			
Adana			
Mohammed			
Nua			

### 【編集部註】

The five best answers will be rewarded with a 5,000 yen book card each to solve the above puzzle. The dead line will be Aug.18. Both junior and senior high school students can apply. Please visit the alumni office with your answer, or use the post box at the entrance. (The office hour is from 13:30 p.m.to 5 p.m.)

### 編集後記

附属中学校の開校あたり創刊した「ユース版」が第10号を迎えました。お忙しい中、玉稿をお寄せくださり、関係皆様には、心より感謝を申し上げます。

また取材については、「鳩が丘新聞」班員(以下の皆様、◎印班長、○印副班長)にもご協力をいただきましたことに、御礼を申し上げます。

3年生 柴田裕司◎田村智紘、原 優花  
2年生 宮澤圭伊、海沼さや、小林のどか、北澤知希、佐藤穂鞠、相沢優衣、谷口真斗、栗林知也、宮坂莉央

附属中・高校生を問わず、「鳩が丘新聞」の編集に興味ある方の方をお待ちしています。(社会科・綿内真由美夫生までお知らせください)